



ISO Revisions
Latest update



➤ ISO 14001:2015 改定
FAQ (よくある質問)

はじめに

ISO 14001 – 環境マネジメントシステムは、世界で初めて策定された国際的な環境の規格であり、1992 年に BS 7750 として発行されて以来、環境、サステナビリティ、運用上のパフォーマンスを向上させてきました。ISO 14001 の新しい規格でも、本規格が今日の市場動向における関連性を維持しつつ、組織に対して引き続きパフォーマンスの向上と事業利益の向上を組織に提供します。

ISO 14001 の認証を受けている全ての組織は、2018 年 9 月までに新しい要求事項に適合させる必要があります。新しい規格は、貴組織において環境マネジメントシステムを見直す機会を提供し、貴組織における戦略的な優先事項に沿っていることを保証します。

新しい規格は、2004 年度版よりも明確であるため、貴組織が事業の持続可能な改善を増幅させるための要求事項として関連づけることができます。また、新しい規格では、環境パフォーマンスの改善がよりフォーカスされています。

本ガイドでは、貴組織が改定された規格の対応を開始するにあたり、よくお問い合わせいただく内容にお答えしてまいります。

規格について

ISO 14001:2015 の IS（国際規格）はどのように入手できますか？

日本規格協会の Web サイトにて規格書が販売されます。

ISO 14001:2015 日英対訳冊子： 32,000 円（税抜）

JIS Q 14001:2015 和文冊子： 3,800 円（税抜）

www.jsa.or.jp/store/index.html

新たな構造についての情報はどこで入手できますか？

ISO 14001 は、ISO によって規定された新たなハイレベルストラクチャーである附属書 SL に沿って作成されました。BSI ジャパンの Web サイト上の資料ダウンロードサイトにて「附属書 SL の紹介」というホワイトペーパーをご用意しています。そちらも是非ご参考ください。

規格の変更点

新しい規格では、PDCA は構造に含まれないと聞きましたが、それは本当でしょうか？

新たな規格においても PDCA サイクルを活用していますが、プロセスアプローチの意図についてより明確になりました。

ISO 14001:2004 と ISO 14001:2015 の変更点の概要はどのように入手できますか？

BSI は、両バージョンの規格を比較した箇条対応表を製作しています。主要な変更点やどの箇条を参照すべきかを、すぐに確認することができます。こちらも下記 Web サイト、資料ダウンロードサイトからデータを入手することが可能です。

www.bsigroup.com/ja-JP/our-services/downloads/

リスクと機会の特定に関する新しい要求事項がありますが、どのように対応したら良いのでしょうか？

リスクは、常に ISO 14001 の特徴のひとつです。例えば、著しい環境側面におけるリスクなどが挙げられますが、今回、それはマネジメントシステム全体を包括するよう、より明確化され拡張されています。例えば、機械化による効率の改善や生産性を改善するようなリスクに起因した機会などがあげられます。

完全なリスクマネジメントは本規格では要求されていませんが、リスク管理を行うためのフレームワークが提供できる ISO 31000:2009 は有効かもしれません。

新しい規格は、管理責任者の要求事項が含まれていませんが、このことは BSI での審査時にどのように影響がありますか？

新しい規格は、マネジメントシステムにおけるトップマネジメントの関与という素晴らしい機会を与えてくれます。リーダーシップに関する新たな箇条では、EMS のプロセスが組織のプロセスに統合され、方針と目標は、組織の戦略的方向性と互換性のあるものになります。訪問審査の際、BSI の審査員は、トップマネジメントとのインタビューを実施しながら確認します。

従業員 50 名未満の中小企業です。

ISO14001:2015 は関係があるでしょうか。

勿論です。規格の改定版は、大企業、グローバル企業と同様に、中小規模のビジネスにも適しています。本規格は、企業規模に関わらず、環境パフォーマンスの向上と天然資源の低減やコスト削減を可能にします。

早期準備開始段階において、BSI から何かヒントはありますか？

変更準備におけるいくつかの活動は次の通りです。

- ISO 14001 の新しい規格を入手して、貴組織に与える影響を与えるカギとなる箇条について考え始める。
- 現在のアプローチ方法の見直し。
- 貴組織の状況について考え始めること。
- 組織に影響を与え、今後管理しなければならない変更点について、貴組織のトップマネジメントと合意し、彼らが課題を理解することをサポートすること。
- 貴組織における手順の識別、管理、運用方法に対するアプローチについて見直し、棚卸しすること。
- リスク及び機会の管理に関するコンセプトについてどのように今後進めていくか、そこから得られるベネフィットは何か、ということについて考え始めること。
- もし、貴組織が1つ以上の認証を取得している場合、マネジメントシステムの統合から得られるベネフィットについて考え始めること。

▶ 他関連規格の変更について

現在、どの規格が新たな附属書 SL (HLS) に沿って改定がされていますか？

次に列挙する規格は、附属書 SL を適用した代表的なマネジメントシステム規格です。

ISO 22301:2012 – 事業継続マネジメント
(附属書 SL に沿って構成された最初の規格)

ISO 27001:2013 – 情報セキュリティマネジメント

ISO 9001:2015 – 品質マネジメント

ISO 39001:2012 – 道路交通安全マネジメント

ISO 55001:2014 – アセットマネジメント

ISO 22000 (食品安全マネジメントシステム) 認証を取得しています。今後何が生じますか？

ISO 22000 は、現在改定プロセスが進んでおり、新しい規格は附属書 SL に沿って開発される予定です。新規格の発行は 2017 年初旬が予想されております。詳細な情報は ISO サイトをご覧ください。 www.ISO.org

2016 年に予定している再認証審査 (更新審査) において改定できますか。

はい、可能です。その場合、貴組織のシステムが、ISO 14001:2015 の要求事項を全て満たしていることを証明してください。

TS 16949/AS 9100 を認証取得しています。それらも附属書 SL に則して改定がされますか。

TS 16949 / AS 9100 とともに、2016 年 12 月頃に改訂版が発行される予定であり、発行された場合は、新しい改訂版への移行が必要になります。尚、両規格ともに附属書 SL に則して改定が予定されています。

医療機器規格の ISO 13485 には何が生じますか。

2016 年に新しく発行された ISO 13485:2016 は、ISO 9001:2015 で採用された附属書 SL とは整合を取っていません。ISO 9001 と ISO 13485 の両方の認証を取得している医療機器メーカーは、これら 2 つの新規格への円滑な移行を実現するための移行計画が必要になります。

▶ 移行プロセス

どれくらい早く移行プロセスをスタートさせられますか？

すぐに移行への手続きを開始頂けます。BSI では ISO 9001:2015 への早期移行を推奨しております。改定版への早期移行によって、事業プロセスと品質マネジメントを統合して、競争力のある企業へ導くことができます。

ISO 14001:2004 は、いつまで審査の適用規格として有効ですか。

現行の 2004 年版が、審査規格として有効なのは ISO 14001:2015 移行期間である、規格発行から 3 年間の終了 (2018 年 9 月 14 日) までとなります。積極的にこのプロセスを管理できるように、できるだけ早く移行計画を進めるのがベストであるといえます。すべての認証されている組織は移行期限までに新しい規格への移行を完了させなければならず、ISO 14001:2004 はその時点で無効になります。あらかじめご理解ください。

移行にあたって、審査工数追加と審査コストの追加は発生しますか？

お客様がサーベイランス審査 (再認証審査を含む) において移行される際に、新しい要求事項の導入に対してレビュー及び審査を行う場合、追加工数及び追加コストが発生いたします。

サーベイランス審査よりも早く移行審査は行えますか。

規格発行後の 3 年間であればいつでも移行審査を受けることが可能です。もちろんサーベイランス審査 (再認証審査を含む) を待たずに移行審査を受けることも可能です。その場合、特別訪問としての移行審査工数が必要であり、追加の費用負担が生じることとなります。

➤ 移行プロセス

認証書リニューアルとなりますが、コストが発生しますか。移行審査に伴う証書の再発行のためのチャージは必要となります。但し、再認証審査時であれば、証書の再発行が行われますので、追加のチャージは不要となります。

移行プロセスを通してどれくらいの道のりがあるかどう把握したらよいでしょうか。

お客様の状況をお伺いし、改定版 ISO 14001:2015 への移行に向けてサポートさせていただきます。お客様の移行の進捗状況等、お気軽にご相談下さい。移行対応に必要な事項を説明させていただきます。

適用範囲の拡大をしたい場合はどうすればよいですか。2015 年度版で受審しなければなりませんか。

いいえ。2004 年版の既存認証の適用範囲にて拡大いただけます。ただし、拡大完了後、2018 年 9 月までに新しい規格での移行を完了させてください。そうでない場合は、無効となります。

現在、ISO 14001 の取得を検討中ですが、どうすればよいですか。

ISO 14001:2015 への移行期間は、2018 年 9 月 14 日までになりますが、附属書 SL のハイレベルストラクチャーに慣れるにはある程度の時間が必要になるため、できるだけ早い段階での移行を推奨しています。

まだ導入を開始していない場合には、2015 年版の規格を入手し、こちらのバージョンを導入することをお勧めします。

ISO 9001、OHSAS 18001 を含む統合認証を取得しています。ISO 14001 やこれら他の規格が弊社システムと移行にどのような影響を及ぼしますか。

新しい規格では、これら 3 規格の間で、文書間の調和がとれ、システム統合がはるかに容易になりました。しかしながら、各規格は異なるプロジェクトのため、発効日や移行期間が異なります。よって、それぞれ慎重に移行計画を行い、認証を保持する必要があります。新しい規格への移行は、貴組織のシステムを 1 つに統合するための素晴らしい機会を提供しています。

PAS 99（統合マネジメントシステム）の認証取得をしています。附属書 SL の適用がされても PAS 99 の認証は引き続き有効でしょうか。

はい。認証は引き続き有効です。

自組織の認証について質問があります。誰に相談をしたらよいでしょうか。

下記へお気軽にご連絡ください。

◆お問い合わせ先：営業本部

TEL： 03-6890-1172

e-mail： Sales.Japan@bsigroup.com

➤ BSI のサポート

この移行プロセスを通して、BSI のエキスパートはどのようにサポートしてくれますか？

BSI ジャパンは ISO 14001 改定の進行について常に情報のアップデートを行います。BSI ジャパンの審査員は ISO 14001:2015 の厳格且つ堅牢なトレーニングプログラムを受講し、新しい規格で、貴組織にとって最大の利益を提供できるような審査を実施します。トレーニング、ホワイトペーパー、移行ガイドなど、お客様の移行期間をサポートするためのマテリアルを BSI ジャパンではご用意しています。ただし、お客様の事業内における変更の計画や実施はお客様によって異なりますので、上記各種サービスをご状況やご予算によってご使用ください。

どのようなトレーニングが受けられますか？

BSI のエキスパートは、ISO 14001:2015 の主要な変更を理解しやすくするための包括的なトレーニングコースの開発、ご提供を行っています。トレーニングコースでは、改定情報のご提供のみならず、効果的に新しい規格を実践できるようなスキルが身に付くように構成されています。コースは、経営者の重要な役割を理解する経営者向けトレーニングコース、旧版からの主要な変更点とともに新たな規格を理解する要求事項/移行トレーニングコースや、内部監査員トレーニングコースなどです。

また、IRCA 審査員資格をお持ちの方を対象にした審査新資格以降の認定コースもご用意しております。詳しくは、下記 Web ページにてご確認ください。

www.bsigroup.com/ja-JP/ISO14001/training/

現在、主任審査員/審査員をしていますが、新しい規格が発行されることにより、再度審査トレーニングを行う必要がありますか。

既存の知識や経験は貴重なものですが、今回の規格改定は今回の改定で最大の変更となります。慣れない新しい要求事項を理解することが非常に重要になってきます。

そこで審査員向け移行トレーニング受講をお勧めします。こちらを受講することにより、既存知識を構築しなおし新しい規格での審査に自信を持つことができるでしょう。

ISO 9001 と ISO 14001 の両認証を取得しています。両規格のトレーニングを受ける必要がありますか？

どちらの規格にも重要な変更点があります。貴組織にとって変更が意図するものは何かを完全に理解をするために BSI ジャパンのトレーニング受講をお勧めします。

➤ サポート資料

移行にあたって、様々なサポート資料をご用意しています。下記 BSI ジャパン資料ダウンロードサイトより入手ください。

www.bsigroup.com/ja-JP/our-services/downloads/

新たな ISO 規格におけるリーダーシップの重要性

新しい規格は、リーダーシップだけを取り上げた箇条があり、今回のもっとも大きな変更の1つとなっています。このホワイトペーパーは環境マネジメントシステムの実施、組み込み、伝達を確実にするうえで、マネジメントがより積極的な役割を求められるようになった理由をこのホワイトペーパーで説明しています。

プロセスアプローチとプロシージャアプローチの違いは何か

このホワイトペーパーにおいては、プロセスアプローチとプロシージャアプローチの違いについて概要を説明しています。

附属書 SL の紹介

コアテキスト、共通の用語と定義、今後すべてのマネジメントシステム規格のための骨格となる新たな汎用フレームワークである附属書 SL。このホワイトペーパーで詳細説明をしています。構造についての理解を深めてください。

その他:

- ISO 14001 箇条対応表（2004 年度版 vs 2015 年度版）
- 自己評価チェックリスト
- ISO 14001:2015 移行ガイド
- ISO 14001:2015 経営にライフサイクルの視点を取り入れる
- ISO 14001:2015 導入実践ガイド

➤ Why BSI ?

BSI（英国規格協会）は、開発当初より ISO 14001 の最前線に立ってきました。それは、リオで初めて地球サミットが開催された 1992 年に BSI が策定を行った ISO 14001 の元となる世界初の環境マネジメントシステム BS 7750 に遡ります。これが、BSI が新規格の移行について皆様をサポートさせていただけるポジションにいる所以です。

BSI は、規格を通じてお客様のビジネスをけん引し、より卓越したビジネスの創造を目指しています。私たちは、より良いパフォーマンス、リスク管理、そして持続可能な成長を後押しします。

1 世紀以上に亘り、BSI のエキスパートたちはより卓越した方法を人々や製品に適用できるように、凡庸であること、現状での満足に対して常に挑戦を行っています。

BSI の製品及びサービス

BSI では、サポート製品とサービスのユニークな組み合わせを、知識、保証、コンプライアンスという 3 つの流れのなかで提供しています。

知識

BSI は、ビジネスエキスパート、政府機関、事業団体、消費者グループと協力し、組織が成功する上で必要なベストプラクティスを見つけ、知識を構築しています。ISO 9001（品質マネジメントシステム）及び情報セキュリティの ISO/IEC 27001 など、広く利用され、実施されている国際規格の多くは、もともと BSI が形作ったものです。

保証

プロセスや製品が特定の規格に適合していることを証明する独立した評価を通じ、お客様のパフォーマンスの卓越性が保障されます。私たちは、お客様が自らのパフォーマンスを理解するお手伝いをする事で、組織の内側からできる改善分野を洗い出します。

コンプライアンス

お客様が実際に長期的な利点を得るには、規格を継続的に順守する必要があり、それを継続することで規格の順守は確固とした習慣になります。当社では、付加価値及び差別化されたマネジメントツールを提供するだけでなく、お客様が規格やその実施方法を理解するのに役立つトレーニングも実施することで、私たちは規格の継続的な順守プロセスをお手伝いしています。

詳細情報は下記 Website をご覧ください。
www.bsigroup.com/ja-JP/ISO14001/ISO14001rev

bsi.

BSI グループジャパン株式会社
T: +81 (0)3 6890 1172
www.bsigroup.com/ja-JP/

